棣梁集 七

へ2
4772
5

門 へ 2
號 4774
冊 5

昭和二四年二月廿二日 寄贈
高田早苗

棟梁集

七

冬夕恋

あふことはなきのおもひをたくゆふへ

思ひもえよおもかなしつ

り路ぞれ

あれ植のみかるぞ子まちてふあれむ

まやれあれて年安の冬

冬懐旧

冬きりし本る時雨ぞ又昔のそれ

二みえし常なえに人の名字

梅のかに
昔はいかにとへば春の月
あふきて涕ぞこぼれみえ
あきさるけのいその近く
梅のみさかり
そもそもいそはいでてゆかし
たちいりやあけの紅
寿ぞれ様/候
あそこの花の路にしたがひて

みわたせはまゆの紅葉
あれさかり江に野
梅ゆえ野しとせけん
みるに河の野のゆら秋
はりの母家さりかはまうれ
あさけなる秋の河野
流れの川のみなみへ
水底にかれはりくだてかはしの川
せしのおぞよけかるらん

お筆東詠

[illegible]

[illegible]

桃李ちりて[illegible]

山時雨

さくらさけるの山里[illegible]

うらみれ[illegible]

氷

この比いとしろやけ[illegible]

あるまし ぬくれ[illegible]

思りさ

空とりふうきあ[illegible]

郭公の聲[illegible]み

山時る

ゆふくれ[illegible]

[illegible]袖[illegible]

思りよ

[illegible]

[illegible]

依之[illegible]

あさとい[illegible]

ふもとゆくしばのふかきかけてかし

羇中夏

見わたせばさきいのおもてしかへにほそらん

くもまて西の山のうへもなし

松をみる

打見ればなるゝくもまゝ風のふる

いまやはうらの秋のたてる

月前炭竈

くもりて松の炭やくはうかた

名所にもへばかくさびしの月

春の夜の梅のまさも吹のけて包氣

ほのめくるかすみ山のは

大黒の積

はしれんばし杉そ白くし先いの

山もかくるの松あれまゝる神

夕月

よりつるいさるの風に鳥あるまきて

秋ふきしくらふ月のけ

[illegible]の松の[illegible]しくれ

[illegible]

二条関白

[illegible]

[illegible]の関[illegible]

月影水[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山[illegible]とこころの[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なつみこしぬかりのそし[illegible]

ゆるすへきいとく稀く

暁霞

暁のねみこゝろたとひあれ

わきしんのたとふまてゝのれ

朝顔

さひしきは[illegible]のこゝろさて

あさけ[illegible]

もの[illegible]かの[illegible]

虫

ものゝあはれ[illegible]

もてなるくものあり

夕[illegible]

[illegible]

[illegible]

しなきい

[illegible]

[illegible]

朝

引あるの光みをかくすはものあれ

尾かりとれ時あ折ふ書なは

あふまもりかりて雪あふ彡錦

あるし本あるし秋こそゆきし

を

鳴つるあさしちまるあ鴨とも世れ

さてもこゝもしきさそゝあれ

かのうふ

ちりすゝろかれ大はなよちなん兵

千代ちかたいきもゝかれきて

夜を語

あかしきや見ゆるひとつ陽

沢の桜ありしめやしん

至海に波大浪花の小松

岩の松無からくりて梅

住ゐとききここえ得子

[illegible]

[illegible]

名所雨中

むかしの花も見え居代の風

三日嵐の雪とちかれ

りくのちらしまれあちらの風

めくそらくのちさしの空

杉逝長野

ちるくしな去つる子雨いうみて

むかしの枝れまそとそふ

梅其

雲とらくれ色といかはる秋の花

梅やさくらのたゝきの色

おすゝ梅

みるまりや山一雲のつくえまき

晩くや春のゆ野の梅埜

梅臣蓮風

旅人の梅の枝のちへ

梅まの梅乃い95ゆりき窓とふ

梅の花をのりよき風ゆりちるへし

清月上梅花

くらかりに名乗る君なしいみ

のほる月ならさえ二三寸梅の枝

梅か香先月の月のさえしくれ

やみよまたゝ隣よりもる月のけ

あの高みちなる哉

なけまて

かけんとはれは月はいはきたりたはの

すゝき萌なけ殿

梅香のあて手部してほうりそんしの

出梅歌けり

世の中はうきものさくらのゝみ

うめしくまかされ哉る

梅かほ置門

すゝみる籬の雪のかほりけり

雪中梅

梅かのひましもろい片隅に集りと

はるかす翔のあさ雪

潮上霞

漕出ぬとみえつる海の霞かな
小舟の影はかくれてうれ
瀬戸の海や沖の小舟もかすみて
霞む比渡る舟のゆく人
あらしふく比は風も吹きて又
うらもあやなき海の霞
朝風にけさも舟もほのかにて
春の海の沖うちかすみ

水郷霞

春の子野のほのかにたなびきて
笠さしたるの家の出入

庭桜やも

時しられぬ山に人はいらぬめく 積
ちらぬのこころのありしも
さくら花ともにほひて
物思ふ庭の雪も

言始画

ぱれのにいきとめ引にこのあ
お日年中もかけ越すよし
芳潮秀
望てや茅らとはえてむすや日
とわり木津馬されちつか乃
山より
まけらきい着色まゆめ花の去て
やて耳とてけまさもいけり
相をめ見えさていかうひかて

山まのわ蚊さゝとをつし
夕涼り
町の翁農氏の君にとまわりやけ
すみゝ之園て乃助へまん
梅を意那
きのみころてしきもかわね一の
そる梅ばみ春ゆ木もはし

梅の香ひの外ゟ融字咲まし人
やまかげや人やとがめん
早の村　梅莫
生きてさかり池の蕗の芽の
梅の香さきそ春の木
きうそとのさかりの若この月
梅の　のせの春
夕暮の月

ちりしく手習のやなぎかな
白ゆかそくそく春の雨
つみ残て出る若菜の気はさあり
やよ花の雨
初柳
昨日のさかりのなかなかと
こゆる青柳の気
春風
りなつむ花うへ若菜摘ありて

まつやとてやせぬく 以上

右

よき人のみさおはよふさうもの

支といはれ候かくれさりけり

四方に甲斐国山家郡 江尻

男女の和も御のあつゆやらよ 望之

此ところ見ゆる白きあり 氣

うつしよみてのとに山 知

はこみえておきませし

右 未御返

御さうらい御よりはしみ三せ候

ふみはすぐしもの参り

いまこのかた御もの年やりまいらせ候

御はなしさくの様のかたくへ

貴つかわし 参

一ところふしまき御まいりもめでたく

ものとしのへるまつめ候

柳 柳 水

長　新　長　長

何くれと仙の一樣はちくいね

あふれぬ水の柳の色乱

島田中舟

長母のこゝろうれしきことともおもひ

雑山寄てよくもあらし

雨中　嘉子

蒔屋の[illegible]けは世の人こゝろ[illegible]

ちるかな残のうちもある　新子

東西

しるし又舟海の日柳よりみえて

長

ちほのあをのゝ[illegible]

和白

咲きる山の[illegible]

[illegible]

[illegible]

人[illegible]の[illegible]

徒よ[illegible]

[illegible]

芋浦　著

君子のつましけりきうしめ
ちのすの雪のふりやし
名にそひ
三千もえも手に比美てつくし(まき)
地 路さに七夕にまりやん
田植
ぱまた宮古にありれぬ
かへ田の植えまうたひ
春雨のかるかあかなきをのへ

村ぞろくと植かのあさし　つまよみ
花やて
海の香さこえちるい村雨
よもの風そのたいすん
峰よえ空の姑るも地も見ゑ人
雨えるもりとわおいて楊らん
つし
玉の松をしめる誰ありし人の
さとりかさからめ

二月 返し

おもひやり……

あかなくに……

春の日の……

くるゝよの春の日かげとみえなくに

人(は)心もしらずふるさとは(や)花ぞむかしの香ににほひける

あさみどり……

あかなくに……

春の野のわかなつむとて……

ものあらしやかれのてふる

花鳥風月

梅がゝにむかしをしのぶ……

春もえて……をちこちかなし

また……

春霞……梅のえだにてなく鶯

月よしみ……

春かぜのはなのちるとき……

春風のかぜのはなしきかなしさ

月映花

…のもとの言ひて渡る橋より

月のひかりちれもの高つ…

…のうけものこ

…

よのもへ山枝あきるらん

とふらんは…

あるへのさとよりきこゆるせ

のかりとしくらん

つらぬきとめぬ玉そちりける

[illegible]かつりいのそこひ

[illegible]國淡

よのやよみいおもらしくれつゝ

ありまやまゐなの篠原

[illegible][illegible]三

[illegible]つ[illegible]身[illegible]かゝらしと

人[illegible]そ[illegible]のうちれ

[illegible]剣の[illegible]

[illegible]也[illegible]ゑ[illegible]

こゝの一かはとおもひしこれ

原忠る

三[illegible]のさつげるこころともあるみ春

風吹ぬ[illegible]の[illegible]

[illegible]本

おもひいかのせきしまさみあれね

なまくらとこのほみつくら本

[illegible]義某一冊

春秋し廿

人たかることし今いくつぞぬまさし
ものゝ浮かれけまて
鳥
みくる日まつものめうしてや花越て
あはまちいすかるつゝの袖まで
夕お
はくまあを切られし花もとさて
三さうするきのこの根うの
世

廿春し春

まくつみの册まいめ有のそくは
さうとてやひくせやつるつき
春ん
あつさかこまみ花まさく　もん
んとけてあくかすうれ
みの露ぞ
名風のちかやのしりくちくし
おほくいちゃめものゝみのけ
高枕之也

田夜 春 丢

なりふ殿にていとまあし
おもいすゞ時春の柳に
人のまとやり梅かゝうしお
こゝろゝる
かすてみなくらうかまあ梅ありいそ
う物りね かくの一枚
扇子雨の手うらにて
硯よりくらの花ちり手扇子あらひ
こもえ雨や風もれん

扇

戈 文 芝

もろくて君はあまきのもろつはね
ひろいはなれころうれ
酒御一好礼の事あみ文かな
うもとの下れいはけ羽せ
やまとく
うかもしていはまかい海 三子
なれ初のれめくさう
首三文朗
為のむしと其紙いあとえきるに

浮のつて春まて待れぬ花のの杜
紀 新古
ほとゝきすなくよの林ははまこと
山ほとゝきすや鳴とも聞の山さと
読人しらず
このゆふ雲をたなひきし
山ともかゝしるこなれ
かつきかへしては一ねむりてまし

かくしきゝ山ともくらと
山家
竹のみや小向の鶯やいこえとさ
やしくいま田上の里
山鳥枝の撫子みかつくや 浅の
里みえて大そる山かげも
新古
見あけた 風の柳にも
さこさらしきふ年のはこえ
むこの(とふ春のこよきし

新樹

[illegible]

懐旧

[illegible]

菖蒲

[illegible]

あやめ

[illegible]

近

夏

名所わりつ

けけいとりとめれと松まれ

さゝきみしのかりつ

村上松

とけきい條はし枝をいりもみて

風とともお松のつゝ

雨中夜

[illegible]

[illegible]

秋

名所

名せもい[illegible]の[illegible]まま[illegible]

もけし[illegible]の[illegible]

水[illegible]

冬

かの[illegible]とし[illegible]

[illegible]

あ[illegible]

かし[illegible]水[illegible]の

名水[illegible]

一こゝにまゐらせ候 かしく
よろこびの言のはあまた
うれしく
今年こそ年のはじめ
まつ世の
君のこと 御代の栄をいのりつゝ
あらた
さける花
[illegible]
[illegible]

なのめならぬ御めぐみを
彼方の花を見て
ふるさとの花の
水の鏡
御名の末の世まで
言の葉
文政六年五月十三日家の
百詠歌子
橋倉道殿

夜松

いつはりに さそはれ来て 帰
たのめつる 契りのほとり
暁鶏
とりのねに 夢路おとろかす
て押 ゆくる 田児の 枕舟
秋雨
君が 代は ながき 出て 秋に
松は 幾千代 の 朝雪
松雪

雪枕

通ひ路の 雪に 松の葉も 雪は 雑
たま／\ さえわたる ゆめのみち
寄枕雪
雪つもる 枕をならし 出て 夜の
掛ます 夜はする 下のたち枕
山桃
さそひ来る 嵐の風に 吹立て
旅衣 ぬるる 松の雨かな
初月

いくたびか出ぬあれあらん
まさる田川の七日日の比
新塔述懐
ちらけれなけいきくとしほとかれ
こよひこそまくら物のうれしさ
夕小路
ゑのころけれ小路の鹿ねとこえ
人の目かくしあらはるゝの門
夜月寄明

いさよひ人まつほとは垣ねのさか
なくしらぬ秋の月みけ
月のけはさきもそめ家あれ秋や
ほとなく限る垣ねの桃
夕蛙き
聞えて寄せいばしりて立つはすり
夕のひつくしけるかなしや
暁蛙をや
みゑもさ
いきさとなま声の嬉しの命はいや

夜

[illegible]

時鳥[illegible]の月

二季の雨[illegible]

雨[illegible]

山寺る

ほとゝぎす[illegible]やみ[illegible]

[illegible]

蓮[illegible]書

夜

[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]

春月[illegible]

[illegible]月[illegible]

[illegible]の[illegible]

月[illegible]の[illegible]

月の[illegible]川[illegible]

[illegible]舟[illegible]

秋 秋 夜 題 題 題

春の小みちまて暮いる
こゝには竹こしきゝ桜の花さかりとえ
人れ川ゟ水のうけ
空蟬 虫
ふるを出来るわらに色にかゝり
り晩まちふ登の也
樹陰 蜉
あきの秋ゟてうの夢のうけしやえ 大
岩もゝ芝しとといふ月の中 蝶

花
いさりしはきんはやさきみ原
すゝみけかぬ菊さく花せを
鳩
やらのあゝまさせてもあゝらく
ほとゝかまたゝる鳩
鮎
こやかやのせうへんとれ河の鮎
つみや也る菊のあし木

春月照雪

たちかへる年をむかへんとてこの[illegible]

冬こもる[illegible]池の[illegible]

春の雪

[illegible]冬の[illegible]

うちわたす[illegible]山のはの[illegible]

[illegible]

[illegible]

雪

[illegible]

[illegible]

寶隆上人[illegible]

[illegible]

不靈山[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二条山[illegible]撰[illegible]

秋

大主寺試　河内八尾

はなし

津軽守望まゐのあのこと

月寂の実を　初秋月

岩ぐ寸ちや秋もめさめ　相生もらのあはれ

岩つ寸えちるさりの一きよ舟

出まのれや秋子のもまきる

秋　秋　秋

橋也

嵯峨に残る月白き気

咲残る秋の足やりの枝もまず

はつ月云三さうし見るこの手で

月

月さちて寺る庭に秋の神　てえそ哉

めでん嵯ぎ露の月

日本扇

かりうね畑早苗のさそみつてまで

おのさし押てよかりさる月の風

秋 秋 秋

秋夜

おもしろき風のさむさもまさしや

月はつゆのこぼるる秋の夜

月 暗無月

秋ながきよの月のつゆめし

こうろぎの鳴の声をとりや

よく露そまるやかしん武蔵野の

月のゆくえ

夜 秋 秋

夕晴

晴ても雨ふるさそふ風のみ

まつ 一本すすきの色

一本のうけいさうらし以上

和秋夜

さこくるかさの袖秋つげぬし

のかちの月

祝

つる文月のすへへそこそとき

秋

なき父の[illegible]やいのれ

秋草花

一筋の[illegible]一つの[illegible]川[illegible]をの

[illegible]咲[illegible]月

草花露滋

[illegible]秋の[illegible]まねとい[illegible]

まる人[illegible]

秋　秋　雑

あつまとても[illegible]の[illegible]秋草

[illegible]けん秘めとさこまま

胡子も

又一枝[illegible]立ちのゝお[illegible]れ

雪又かとうみ秋う月のも

弁慶

[illegible]川国風[illegible]

[illegible]

[illegible]

雜　秋　秋

あさしとふむれこらいしとも
かげさしはれうて　打出の酒
水ざ月
もぬれて錦の汀は月影 搖まく
わきこて出る舟人
月影と見えあさき　来る出めぬ
よしあしのに磯のはこいとて
七夕照見
淋しきや腰立あそへ

秋　夜

去月の雲の面の錦
中あはこの
かよはゞ王子のやみの白露もがな
川七日の句
雁しもの里
かゝとこりや江の川　習礼
桜宿荷
なきて雨もやくちかりと笑の末

秋 一 題

まつ(い)のかりわれは[illegible]
一両中めらいぞ 両すやとくし
かくるつき夜のとりこし
さよやさしけのめきらそのれ
塚めかれ
[illegible]ある[illegible] さけ
あるみ[illegible]
[illegible]
上[illegible]かつかくの[illegible]
わきみまつひ

[illegible] 林 秋

秋の野のやかなけ[illegible]ても
天のあれるにちかん
末山のはるみけれふ[illegible]
まほうちてかなを つけん
秋風
風白雲あらいのまさみちかく
川竹のはいうきなし
浮ありてめよのかくよいもの
なくせかゆうとやとる山川

恋 秋 秋

紅葉之
ゆふひまかしらすけれはなきぬれ
落葉し紅の錦みこ枕
はいりなも末
江物しも南まこしみし宇のお
月とこるろのたけえ入る
秋夜月
いるも秋のうきすとあきの
秋みえいくよ月のすらん

秋 秋 秋

秋月
なまみと秋の月
秋の月ものかゝるの利
名所ノ
明石のうきまよる舟ゃんの
大るとなく月るきせなの
秋夜月
つきてこし月のけくいまゆかきまあ
やとるとかゝるあかゝらのかえ

遠擣衣

吹くる風はかすかにきこゆなり
見ぬ里ゝへてすみわたる
村の月を見て
めぐりあひて[illegible]秋の二三夜の[illegible]又廿夜
たつる月かゝをとれハ

橋上月

かゝらる月ともみはてんほと[illegible]
秋の空いとしもあはれ

雲中月

夜半の中ハ以てしきにも[illegible]くもり
ふく風も[illegible]雲の[illegible]
[illegible]ぬるゝ月を
[illegible]

月前旅

なれあひて月見るよりのさいつ旅寝[illegible]

なくさめのかうみのまゝ
勝元こそ
東てしの宮子さ(?)
きめしのみさま
みなもとをいかしのこ
るふをかのあかりな
かみのけ゛のかさかり
はこころやすしの
こま次郎子の

清兵の方へ
げんきて
さのりとお
かりとはいひ
このうちのまもん
おさへいそのいつ
なくさもしとやす
此川かとく寺の
日本はしつくして
石のさくみ

新しきへ
さのりもお
やよのうち
かまらの
はらみ
やつ見

新樹

うゑてみしうつりかはれ

たえいりかくて

わかみなきものかりれうつおひ

きやこみおくつきもわれつれんとは

贈外 秋守

まつこんもののふさしうちをかしき

来ぬより おもかり荻

志操花

月のかげ寺もみえてとほさとる

早苗

川ぞひのつらなみかくる

一瓢亭

あやしくも松井ばりてともしびの

さえわすれぬあふのわかれ

豊後国府内筆松田方

三文のこうそのかくよ

十とせにかつての流のいよ柳つて秋

わすれんまもやしくる

和気子画作

歌学大成

秋　秋　龝

八日の一てはほかりそて書あの

と錢んゆきみちそき

秋あそき

まきの八しうのこらひとのこの

まりやはつの湯出なけれ

秋　や

おこりのちゝ　いそしそてるゝれ

神　おは宮のちりのみ秋

ゆれのしくさし膝ありのくて

秋　秋　秋

もくゝ　あそみ宮のそれ

秋深けのて

ゆきみゆきい秋のゆみてらゝ山

おそみのくまいかてる月のれ

さしき鶴のかわいいかそうそれ

秋まけゆの空の月うけ

おそよると深

かみいゑきの秋雲かれ　ゆめ

のくるや　おきての鶴かうきとも

小生事 [illegible]

[illegible]

[illegible]

津軽甲斐守 [illegible]

[illegible]

[illegible] 枝 [illegible]

[illegible]

[illegible] 津軽の [illegible]

[illegible] 中 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

林 林

[illegible]

[redacted]

[illegible]

[illegible]

多 林 林

[illegible]

いかなる八幡の[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

あ[illegible]の[illegible]

時雨れは神にもれぬ こまかこぬ
あきのたつ日 宮の木ゝ 木の葉
文屋康秀
吹からに 秋の草木の しほるれは
むへ山風を あらしといふらむ
大江千里
月みれは ちゝに物こそ かなしけれ
わか身ひとつの 秋にはあらねと
岸本きこのこともいふなり

よしのなきぬのえもの
神無月 ふる 時雨の 雨の
菅家
此たひは ぬさもとりあへす 手向山
もみちのにしき 神のまにまに
三条右大臣
名にしおはゝ 逢坂山の さねかつら
人にしられて くるよしもかな
貞信公
小倉山 峰のもみち葉 心あらは
今ひとたひの みゆきまたなむ

[illegible]

歌学大成

[illegible]

寿陽代

さそろ鶯の声のし春かへとこゝや

民のよろしあるものゝらん

おとめゝゝゝ石言代のそゝ

梅る

粉呉迄一りもんりし茶

淋し椿花仕帖

一あやゝるそ

ろなき遊

きとのあと遊

こゝ

きいふつしき

おりしものれ

芋戦

盛言ふつるつきゝ

勘せりし

やき

歌学大成

むろしき

好ちあわとるねつき

うをし膳なあかもつてそなく

すつきの方へ

そ梓子の子のわぶらなき

て

がれるこし

名所杉

まつとのしきかとおはよるか

杉のうつくしく杉代つなすし

こかやれく杉風へん庵やもとれ おか

ちとれみかけの杉の花

雲中らし

物のさかきふり杉月の暁の白雪

中杉て杉東杉東の

中杉杉杉杉杉

二季中季之

よそうさけきなきへさ杉田のよ

杉杉れきの竜由のもん

但史

但史のもよ杉の杉のい

うくさんと杉ひのえ

れきらもる風のわすめや杉さえ

みかきおこれ馬中すの但史

御中さし

ぬるしとよそにて見しけれや
みなかの夕の色ふるこれ
山吹
きさらきの比の野辺の春の
さくらの花の山のしけき
きのみきよき見えの白とつくしの
ほとりてうく人の色のまさる
春雨
ふりつゝのみきみの小とも

ほうせの花の色
水辺柳
春のいとの小の水のあさく
のこゆきのとえはなつらん
山家
山のおのれの人のきしを
都の人をとひやまん
夕月
夕きの月のやまともとよとの道の末

みのさかへとりしやいまあ

山家花

りんせかきあさうゆふかよきれ

山かつのあさゆふさきてなくや

雨後草

下やさはふりしも亂すみ草のれ

宇治の川ぞしらの川下

[illegible]

もてくしい[illegible]しゐるじん

すつまかち[illegible]神のそ[illegible]秋のよへ

夕雨月

いく秋のとしを見るとんせくらむ

かげもあらそん月なかのよ光

歳暮姻

花ぞのまの何そさいかの都のの

あかしくをとめの山鳥

桜の花の時もさく日

春秋の花ゑのとおりめて

秋　葉

日ぐらしのけりみえつゝみ

依紅葉詠左

おちやなるさかこぐれけりて

いそらゆくとなき[illegible]

[illegible]

[illegible]やさそかれもれ

ほちこのまへ[illegible]

紅葉

おもてのゑうつゝ日そ見えり
理[illegible]

葉　葉

のきし[illegible]さもさらさしれ

梢見の京城とかくれ

かくし[illegible]ちかりやかし[illegible]よ

もてなさるゝ人のみのい

冬

見つぐるまのなみかれ[illegible]

しはのやすし人の目にみれ

移居赤世間

ふそなるさ[illegible]しかれる[illegible]
[illegible]の

ふるさとのむかしをしのふ本まよひけり

懐旧

ありしにかはるなかめしてしのふ世の

春の花の色

経慮不成功

ものおもふとりて不なる

世のなからさてもみしのきはなとかな

人情難慮

さらにもしのふ世こそけれ

なつかし人の心

賢者不免

きのふありつる人のけふはなきなけさる身

[illegible]

歳暮

こよしまたすみ人のかね

なくしてもくれ

述懐

よのなかにいつくあれてのさ世のなか

みちありて月よ花咲く春ぞかし

厭離不易

なまじゐにものおもひしらせて

いとひつゝ世をおもひすてのかれ

懶惰

あまたゝびおもひたちてもしのびかね

人のめぐみよきみちをおしへ

逢不逢恋

ことわりの無かりし節かやよ人を[illegible]

かくのみ見るぞつれなかりけれ

落花

ちる花のちりしとぞふく

けさもかくちるやよそのちりけれ

冬木雪

さらぬだに梢の花もちりぬべき

雪のつもる風ふきの秋

ものにふれてもおもひ

ておもへる

一 鮭まとりまへ也なき閨の

まこや

の月とねとみ さこの見ん

汁の色しわよりしや

可削川 ちの光へみよと光あ

くとふき 芦 や 月日し なまへ

可梅

まちあきこ 露の あちを月を とこい梅

おめとりてあぬ春のゆ夜へ

胡蝶斎

色香を梅にとこし 如雨風の芳り

野 見せる春の一夜

馬

ちのなれ まこし 八日ゆる 川の

川ゆきろかし 鳴せさるものかし

梅若丸

みまり 古き箱 なかのきるまこのれらし

春への香れ梅

山家秋月 七十のかさなる
さらの月 すみの山の みやこ ふるさと あはれ
たゝるおまき あつひや ちるかれし
浅香山 花の影 ありけれは 長さる
さらにいひ やるまし

名所山
一 本 松 駒 つなぎめん 菴

さらしなの山の雪の明方
名にめてゝさやの中山さりとも
露見けるや雲とや見えける
松
まつはよに人の ちかく まつのかれ
梅の枝の松を世 かはりて
松の ありても 松の 千とせ 遠
かくの松とし
一 めでたき
名所松

こゝやかしこ見えん花や路の草
昔語りの桜の花のけ
春あらそひてしきりにみかねかよの
桜散るてふ花を一夜なかまし

歌

おほかたはもろこしもやまとの言のはさらになき
月かけはありの花のやみかし
人の心のあはれさとも
世のわさやはかなきものを

しらぬみやこのしらぬ人
人の心のこりあるさまにしひるる
しかるものをなにはおもひさとも
さらにまさる人の心やはかなさ
なかにして
かくや世の事のはかなかりけり
おもふこともさかりのなくてよの

夏枕
峰の上の桜さきけるすまひぬ

すゝしさはけし　杜の下こゝ

夏夕

あつさをもはらひすてけり風そよく

とふ人もなき夕くれのやとのほとり

夏野見え

よしの山あけのそら見んおもふとも

みな月もすゝしきかせにかはるかな

立秋

よしものはなきうきさえてちらぬとも

あつさしやとこてらすおもかけのれ

千尋七年しの年にくらそこなれ

石[illegible]大にこそ見え

みなるほとゆかへて

かきこのはかの末城かいしかえ

あまいはかりぬかにそこあまねし

和歌

たゝのはのていとの地理そこ

紅のねこの　ひるさのはるのれ

あつまりし小石もうごくみちしほに
やまの上にいさゝかなからん
雪中鶯
鶯のこゑのこほりゝごゑ之辛
かすかなる人のうらやすみ
名所若菜
はるの野に鈴の分入見とけて雪をはらふ
わびつゝもからかね
鶯宿梅
大口之所
みちのくのさのゝ花にさそ散き
のとかさやすらん
依風尋梅
梅の花吹ぬる風にさそはれて梅の
主の名をなかしりて
鶯有声
はるあさき松のね山あかりて
たちかへりはるの鶯
待不逢恋一

さゝいはて盃にみだれおこつりしは
寄せちる人ハ字縁ぐやしさ
琴　二上り　本調子
乙げ茶やりして川のせ勢がりゆく
行ふりすりしさ子の山路
山ほ茶屋　二上り　どゝいつ
末ては色いせ勢りハしまんやう
小ちよみふりやし山のあふ
雲母子口(印)

五代のそてちきりしともつけばくみひとり
かのなけおろすかいなき
姫か杉引子ねぎもうくあ
もんておとけあうれ
笹ろ入新手読
雲とちし花の色もかゝ笑よの
まづけるゝ歌のむうれ
山吹
めのゝかしあをしいさすてやよゆかし

はなしさへあてそゆくさ

柳枝綿飛　廿三丁

詩なきしかの毛もちとちらす月

新なる春の青柳

早春松　廿七丁　天満寸

春くもいつなりや一日の

さすまさとくわの杉の枝

柳

はしのわらさきそ春風のんて

よもる青柳の糸

りとるかいなつろの川ゑみるか

て柳し中ふえらゆれ

春水流　廿八丁

およみし雲の如かりの花也一まそ

さもしもやはなくるかれ

月前梅　廿四　隣居

雲のかりもとものこと　散梅花

麗色おきはるさきまの

和哥浦　ちるるめれ

名所　わかもかれ

若狭国かふ浜の東のぬる

ちるの神つ はゆの そのるの

世に出ても宮のぬれ濡尾の

二る年 二心にありとし

んつけめて夢憶れ りつんを

かをもけるに

濱の尾をかけて ぬれに むかしの春の風

雑 しかよの夏

柳

ゆ しらゆる 柳 はなとに

氣利りる三そのくこのれ

古語ね子のけてうけるハ

鶯も声くれし二の春をなくらん
やなぎめになくや柳哉
霞也堂
雪けふのこゝろおもひさくらむかし
さくらの山風
梅林亭
横もり
雪の山きよはかのなかか
ほるよ人のうけぬ梅園

梅の風翁
千とせのもとたまかはきも梅のかを
さえかくらぬ風のあり
梨柳風翁
松のしよおしみもうつのさくら
梅をなのなくも青柳
梅
いうみえんけんかさくらさかる
花しあきを柳の母かる

春やの梅をよめ日いらぬもとめ

とほきやまの神を

いのちはおやてらまいる

かくれ女あし

霜おきてばらばらばらるやまのの

うつしみちや我と見えん

親見る

見るかの家よりやうえばまきぬ

枕のそよの人さいかる

空落葉

きの葉も神のみちしくすすもの

山もみぢの若なつゆは

月なおそ二月へ至り

まえもあかちてさしあ月新字

女むとえみきの花を根と

若山紅葉こうかて波流

水上柳

こゝろせんくるまにとまりけり

池のつみの糸柳みえ

露をむすび 朝日出て まつの

ふもかる 青柳の糸

三具

りうりう柳のいとや 水をわたせ せき堤

よふけしけるうへ

梅咲て山路てくるはせ

さうまし かはゆき

末の(?)

月みさくるのなかちの家あき

なかこつまもの月を聞て

笑われて子の柳や流て花のなか

竹のかけつらく

名所あまた

木かしのや 西川の笑ひ 流れて [illegible]

みるところのまゝ 一ねんおもひまし
待る 一はちまち 天露
明よりはなさめ枝ぞよし
子持の日つまりめ
[illegible]やらん萬中枝
枝の萬のむれなさしやめ 琵琶
まつしき 宿の梅
春の風のあひ一萬中梅
春も云枝そい枝の本物 百助

日ひ云[illegible]中の梅の萬こそ
山さむ
やは姫の[illegible]とをぬいりやや
とは[illegible]の[illegible]さ枝の家つ
色の丹
いつかいけりかさひかれてそよ
おもけ萬の[illegible]山姫
[illegible]しとは云中[illegible]はふ
[illegible]ゆかいりりて

秋部大概

迎ふ

んおしまいき、おまわぬ乾のはなし

こや扇かつるらん

こそいきら ちそんかくまの山の名

かりのおうえ よひや都やや

山崎 知風の七十の嫁子子の

從和の人ゝ行のえ 於よりも付

残りの言 松花の人の

山ね松山にねと かくにてあまり

あはれんそのあはれ

迎遊

いつまでまてまき多や 松ん野 茜ぬ

都一つの人あなる仏 思る松なつことは

子の花 番

子の加そしき 一本二本 地ほは 月れ

西のつき之きと文のの

嘆なるさる加は 松上をとふとや

おしきそのの 中浅 まふらん

春何し

子ゐるゝるやわれてやとしありくろれ

ちりはる浮かうて明ぼて歩

立ちてけりあのみやこの

春日のきしもあしたのみかも山のの

名不雄 ふみ分

[illegible]

ホリやと[illegible]のうし[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]の子[illegible]

[illegible]

ここ[illegible]の字[illegible]

舟中[illegible]子

[illegible]

川舟[illegible]

おもかけを[illegible]てよその[illegible]

さしかへし[illegible]の川舟

久方も[illegible] 石川清仲

[illegible]の川[illegible]小

さつきやまの[illegible]

雨中[illegible]

いりもうし[illegible]の風[illegible]

おとけき[illegible]のまさ[illegible]

寄松祝

さみたれし[illegible]の杉の

[illegible]の枝の枝はまさる[illegible]

[illegible] 十三[illegible] かるかな

のさなり[illegible]

[illegible] 浮橋人[illegible]

ちはやふる[illegible] 神[illegible]

[illegible]

か[illegible]を見れ[illegible]杉の

[illegible]のかね

津軽の箱にきつねのはりしかれ
春風のふきおこれるとおもひつと
て二時ばかりまちまちゐしほど
此海もなくけるは
いけるのまち二時のほどろさし三本
にかつりて四本にのせあり

叢　入公庵

すみのはや浪なかりぬらん春風にさへ
いまあけ春のしらやま

きれのさかへもりふくたやさしきや
春の桜風にゆかえて
ほのかにあさきて
ミちりてかしまのはるいて桜つかい
我のつき宿にそありける
花とよいかてのいはなかりけさはの
花の山ぬれとしねと

四径雄

分すゞふさとちるのりえ

あらためてなかるべくばうれ
なるけしと四方のめぐみにも
きこしめしあらさまにあまねく

遠山

さらば蛙のこゑ大和の国この天地の
めぐみ萌る草木の動きも

二三の声もある

おそくかきくんなかはくわの声の
やよりとしなり上の

猿なき声のさそふ猿ども
まつてふやうのかなしき

神祇

御霊社の恵みよく知りて人ならぬ
こころくだけたる
もろもろの人あつまれる事
きこえあのかたとき
岩淵の国々国のあるの所

十の[illegible]

おもふ事を安かるへき世のためしとも
稲も穂に栄えつきせぬ

社頭花

ふりさけて雲のとはかりに咲の
みもろぶかき鈴鹿の山

名所山

須磨のあまのしほひつきるほとなかめ
見てこそなきよかへるらん
梅もあまの衣の羽花もあやつさ漕や

りん田子の浦へ子
若狭国彩井もあ丹のぞ
かくまる須浦
駿人と見る須磨の浦風のさふりつ
のあ鈴嶺川かよわん

庭家冬

やみらし一色垣田の庭そうし
はるゝ山は風すけるふれ
此舟の声うしく言る庭の枕子

山ぶきの花 咲出つけり

里花

日向なる岸の垣に松原ぬ花さく

有ー風ゆゆしく

言東上人翁の...

花れ子なりて才一家子梅

いかれしる

けふ先花の花みこそ花とも兵く人い

ろくあゝ

花

深き尽いはしあいはて人のの

咲きたれ

はさいそり衣のいよ素あう

さきもし梅子おこころお

あさきまのやよもの いよあるかり

かくしより花の沢子紅

行部ら

かくしつてみたやつのく

はよきし

廿 一 文 一 今

しもきしひものかたみ
藤沢の芳瓦慧花満の
東かりしはひも
割ろうるきうこふしと中しぬとさて
かつふ安天えう利き
五文
又をもの加やりあえこ画つ有く
つくあの庵よひ松如れ
御うれ

今 一 文 一 文

ごよふうこ花の御の所みんとなし
こもりそつきん六の枕の乱
かつ君しの露の涙さ引の冬りとも
伊の所君改いふ置そ出てふきい
五文
はの河よ名りあつす安ねる花
やい分もとい所や白せも
ひきん如なに作と詩もとかりし を
おり二つき分う月の露

ゆきあへにかよひ
北の御方さまの様にまいらせ候
まよはうちそとなけくらん
[illegible]
一筆しめしまいらせ候よきに
[illegible]
[illegible]
さもさまの[illegible]とて
一筆ひとつ[illegible]

め[illegible]まゐらせて
こゝろのいかばかりに[illegible]のきこゆる
きこえもよくきこえはべれとよきん
一筆ひとつまいらせ候[illegible]
八重の[illegible]にしめしあへ
[illegible]
人めつきしこゝろみつきそのと[illegible]
[illegible]
[illegible]

うすそえし　あさみかりの　かのみめ

こゑきこえ　そての　袖　かのみ

帳主

こゑいつれ　捨てものし　山ゝまあきしいま

人もあれ　ふよあし

雨才居　友

よきこゝろは　雨の　雨とものもとて　故

かりりあみり　雨すつま　あれ

のきつかり　さうれ

私

みやまも空の人はたまくやま

云はれしとも　北の

京

浅里

[illegible]

[illegible]

阿仏 筆

亥　廿

ゆくなかれたきにあかりてすまひけん
さゝれいんと細川の水
小ま主漢女
きゝきうもんあり之打てあやめ子
せきる汀はやとなしけん
みなかはりる
あやめそて庭の蓋も此水子まる
み深ふらうかりよの化
六月日

亥　廿　廿

かきつ川紫たしあちてゆくろつに
雨まるみつるれ年月のは
水滔々
おりかくるつかくゆりいかなるのこゝろみて
まきのなかれなるへし
秋とも影戯とまるもの
かけ路そこれいそ一の記
老解

とようくみめり秋のはやと　おほ
かうの駒をやみるらん
氣細工
兄る人ハあきれたてりけるくそれ
王よめてみの心うれしく
駱駝
物ぞかねたてまつしけん山鳥の
月ふしたのしき君の陀代ぞ
切田久

わかるものはこのほ柳
もろき一
一両様三月
せうのはるさしき月なるほと
あくしい煙霞めて
やさのそうし悠てさうしらこの路子
きえひきつりとのころ
採石西
湖りるの嵐の菊子ふらふ文るゑ

わおもおもしどり降るの目
わしもあげし はまもし どりかり
ものはそ色のまつるさいぬ
福禄寿
当りる河ゑしけるはまで
人まきちある都そなみき
布袋
いかりよ之癡ちぬめの袋さへ
けなき弟のとの神取やはき

西は のまは [illegible]
ちいお [illegible] 四ちや名くらん
いさ西をうきおきこらし
西すのこしはなか
弟あまかやて [illegible] やせすれん
西うの [illegible] 吉の [illegible]
岩かつちむけりて [illegible]
さころくむしの神あり
とくえ

[illegible]

[illegible]

舟[illegible]原

[illegible]

[illegible]

夏草

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寄扇恋

[illegible]

さて[illegible]

[illegible]

さ[illegible]

[illegible]

一友　友　友

たそかれのところ〳〵に夢むすひ
けしきなきこのふ

夏山

さゝれ石のまさ晴ていつも見ゆるめくる
てらしるかの御宝
岩ほかなる御代のしるしのはしさそて
春山せ墨舟遊ひし

春山

いかりのあきにひ友としてあつ

友　杜

さびしさはこゝちの旅
ともすれば見ゆる山おとさきも見ゆ
こよひの雲のみのね
時雨のやまは月のよるもと野の名の子
ゆめのおちこ水

萩露

わつらひと空いかにせん
みつきみ秋のつきの王川

杜懐旧

秋　夜

[illegible]袖の[illegible]この風

[illegible]秋のかぜ

いさしつの秋[illegible]のかけり夜寒す

[illegible]袖の風

新[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]やのゆきのこゑ

[illegible]

推

冬秋の[illegible]

[illegible]の秋[illegible]

[illegible]

[illegible]秋[illegible]

[illegible]

梅　桜

春

[illegible]

春　春　春

きるのこゑ晴　あけ日
さぶらひ独女
うりさくをちる人をおもてそれさ
はきうのうつ
おもき
あしいさを
四十ふ手は年のころめ
ねやなみこといもちまこつの中は

秋　夜　年

みゆきてらしき時か
初雪
暮星の入りはるかなるあれは
いは
信松
あこりまいれあちやみ夕時
きみさとなれる
初秋風
よふてちてゆりかけ

秋　秋　秋　一

ばくろ秋のそてつもと

山家の秋

すまねかはの初をとるえすれ

さびしさいさてまそふかきとの秋

田家の秋

しら毛駒のそてえ稲く

嵐の上るあれ

いろのうちよらう葉れ頭にさしつゑ杉

田川木しらの秋

清亭の一周の秋　懐旧の心

なき人のかけみえて　ここの秋にかへるあ

秋とはなけくの哀れ

林檎色の苗なくなりし　年の

そのほかはんの比

一とせくつかはし

ひるなりまはる　の上を

らかなかけくらん

秋やら

貞心世正人

梅上るの[illegible]

言鶯流四

[illegible]の月[illegible]

月のあかり[illegible]よあいかゝい

つい比月ハくる[illegible]とい

比の月のそ

[illegible]

恋 秋

題 題

三首月 恋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

もものよるの月こそ

月前松風

いかなるをはるとか [illegible] なるを月かけ

なるを松風

世の露もさひしき [illegible] まつの風のおとの

竜の月ひとよも

二首松記

[illegible]

良典上人の [illegible]

[illegible]

つまはるくして

はるこそ [illegible] の [illegible] ばきのこゑ

かつわき [illegible] 声そさきかん

巨東上人の許にまかりて
下総国於埼(?)の寺の法経
ちかひ何おもふまゝかり
花のさかりにいつもとしは経
すさまし(?)き家
わかちなきこゝろのうきひつきぬの
つきし秋のゆふなきちる
冬のかり
秋峯のゆふしきさかをわかつ(?)

とかくおもひけるにそれ(?)
侘月夜(?)
月かけのえさしつしらあかしとひ
声よしとしらね霧をわけくる
名所露(?)
をしらすおしむそれまくもるはな
夜のねやのおりろ
おりつなる夢の袖か秋ちとう(?)
歌の月もさこのや(?)

秋

いのちさへ人まくるゝのかはうし
なすらなるかきみさいとま
り経房
んなきみのふるしを出きの
山とい月よみ出てはそのはしさ
弟三房かたのはきをはなまつ
おもくいはのなるらく
せめく月
さては秋うちなるなきなとかく

秋

いさよふなをし秋の夜の月
三条秋
はつ雲とよて秋のもひかしよりす
ちりのまくいくかへのかな
あはれなし
とさしやめかはのなもやさしき風
こゝろさして人やのの月ころ
なきはれの
[illegible]

名月 [illegible]

[illegible]

月 [illegible]

廿日月 [illegible]

[illegible]

秋　秋

諸行無常

まなきみぞ川の日にむかふ

うはとおれまいなき無事

懐旧　清事一周忌

みつくきのあとひともつ王の袖に

めづらしや其一本秋

哀傷

手向女もまゐるしるし

かゝる世の中の

秋　花

をみなへしきこゆ　あつさきらし

さくら花ちの世みね

をりしは花の色のけは

めかしくと中やま

なきこゝろかはるか

一旦とも人は旅の

書之高さ旅に

出立するみなもとの

ちのみか　きかへのさき

杉 悪

はつ一をきゝしとし 竜
咲まき 如是に御きもし ふかの
ありし見かへわて
雅言 みのりみかゝを弘わりしかの
ありも歌かされて
松原
なきあれやつはなものこるのかきや
さあありいすり言のみりけん
り語覧

松 去

いなかゝ見りるしをかゝるさのしらい
梅よりゝ 野ものはな路
さなへつゝるホ
みとり田の千番地なかれてる出づ
千代のこゝと呈いわかすい
松田かゝるところ
めり田の時々宝あやいとよ
田ものきへい稲を見るゝ
言打祝

うはたまの松のさ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]のはきや[illegible]やまの[illegible]み

[illegible]山[illegible]のなかるらん

冬雪

一年に[illegible]のおつる[illegible]

[illegible]

[illegible]月

[illegible]なき[illegible]の[illegible]

小[illegible]の月[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

暮秋

[illegible]秋の

[illegible]

山家秋

ほのかにみえしかたなかりけれ
かきねの庭の萩の下葉

暮秋風

名残なき秋ハ霜も見えしと吹つなや
浅茅いはで吹く秋の風
露なきよそと吹日も夜半も
尾花の上ひゞく秋のこゑ

名所擣衣

さよ風につれてきぬたのおとちかし

とほちの里のさとのきぬた

秋山紅葉

まづはに深山の梢のまだらにもみぢせし
色ちるもうつろふほどなる
いさ人の手折るまでこそかへるに山紅葉の
すぎにていかなるらん
紅葉一しほ深くはじめ山紅葉まで
あるみ紅葉の色

冬

みなとさそひ

定家

六条

てや御法もよおしあらしふくまし上

ねさめのさめかる覧

紀友則

雪や

めの水のさいかたにさえのほる

みとりのそらにのほるらん

源蔵

秋あきのつのをもてあそひ

そよふく風の中

とひかた

にはのしらたまなりけり

菊

万代やふりし菊の

花の

まさかり

まつかせの

秋

夕されはのへの秋風
身にしみてうつらなくなりふかくさのさと
なけきて
おのれのみかなしきこゝろのおもひ
人のおもひをなけけはけふの
山路暮秋
葉のちりのつもりのこけのした
秋はいぬとおもへはぬれ
宗秋 一十五

暮 秋

もみち葉のちりしくをのへ
あきさりてうつりのこれる
山路 暮秋
御のみちのきなき
秋の暮ちりしくに
小野小町
からころもすそのゝ
かくるまもなくぬ
小野小町

秋　秋

[illegible]

[illegible]

[illegible]の春に[illegible]

[illegible]

山路暮秋

[illegible]やまぢ[illegible]秋[illegible]

[illegible]